



中：絵本を読んだりすることある？

加：はい。大人向けの絵本が流行ってたりしますからね。

中：絵本の出版社が広島にあるんじゃが、
あんた知っとる？

加：えっ?! そうなんですか!

中：ほんじゃ、ちょうどええわあ。

加：あれ、もしかして、それって・・・

中：もちろん探検に行くんよね！

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
 ということで今回は、絵本翻訳コンテストでの大賞受賞を機に絵本の出版社を設立されたアカシア83回の小島明子さんに話を伺ってきました。

• • • • •

中：最優秀翻訳大賞の受賞、そして出版社の設立、おめでとうございます。

小：ありがとうございます。

中：会社はお一人で立ち上げられたのだそうですね。

小: はい、そうです。社員は私一人です。
 だけど仕事は一人じゃできないので、
 他の専門の方に協力していただいでい
 ます。

加：協力していただくお仕事は、どんなものがあるんですか。

小：まずは、海外の絵本を日本で出版するために、版權エージェントさんの仲介で版權を取得することから始まります。文章を日本語にするのは訳者さん、その日本語訳を出版に相応しくしていくのにフリーランスの編集者さんや、監修の先生のお力を貸していただいています。刊行第1作の『きょうは、おおかみ』は私自身が訳者でしたので、編集の過程をすべて経験できて面白かったです。



加：日本語訳した文字を絵本の中に割り付けていく担当もありますよね。

小：はい。表紙や帯を含め、ブックデザインさんをお願いしています。もちろん印刷は印刷会社さんですし、流通は取次と呼ばれる本の間屋さんが、販売は書店さんがしてくださる、という流れです。

加：そうした全体のプロデュースをする
お仕事なんですね。

小：はい、実際に本をつくっているというよりは、あれこれ取りまとめている感じです。ですから、仕事はメールや電話での連絡調整がほとんどです。あとは経理的なことですね。家のリビングを職場にしているので、出版社らしく見えませんよね。

中：お生まれは熊野町ということですが、
附属に通ってくるのに時間がかかった
んじゃないですか。

小：入学当初は熊野トンネルが出来ていなくて、矢野峠に入る前からずっと車が連なっていましたから、5時台のバスに乗っていた記憶があります。

中：矢野で乗り換えですか。

小：東雲経由のバスだと、南区役所前まで行けるので、そこから歩いていました。歩くのは10分くらいでしたよ。

加：部活は何をされてましたか。

小：中学校の時は軟式テニスで、高校は一時期陸上部に顔を出しました。

加：授業で好きな科目は何でしたか。

小：中学校から習い始めた英語が面白かったですね。新しく触れる教科だったので興味を持ちました。最初の先生は松浦先生で、単語を分解して読む方法を教えてくださいました。

加：単語を分けて読むんですか。

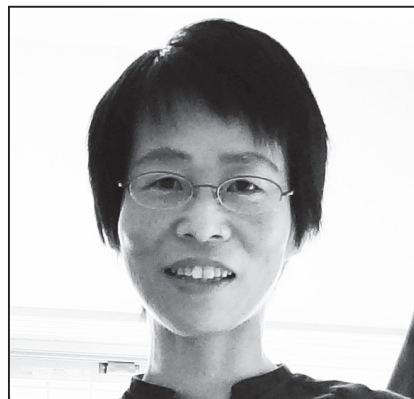
小：はい。音節ごとの発音です。他にも「a」は「エ」と「ア」が入り混じったような音だとか、そんなひとつひとつが面白いと思いました。最初の出会いが良かったんですね。

加：中学校で英語に興味を持ったというのは今につながっていきそうですね。

小：そうですね。嫌いにならなかったというのが大きかったと思います。英語が好きになった最初の出会いでした。

加：仲の良かったお友達とのエピソード
がありますか。

小：中1の時の仲良し6人グループのメンバーと、卒業後もずっと仲良くしています。1人の女の子は途中で転校したのですが、今でもやりとりがあって、附属時代の絆は強いですね。



P r o f i l e

1974年10月10日安芸郡熊野町生まれ、広島大学附属中学校・高等学校に通う。1997年、国際基督教大学教養学部社会科学科卒業。1999年、広島大学大学院社会科学研究科博士課程前期修了(国際社会論専攻)。同年広島県庁入庁、2007年退職。専業主婦として子育てをするかたわらオンラインサークル「やまねこ翻訳クラブ」などで児童文学翻訳を学ぶ。広島市内にて原書(英語)で児童書を読む「英語読書の会」を主宰。2014年、東京都板橋区主催「第20回いたばし国際絵本翻訳大賞」英語部門最優秀翻訳大賞受賞を機に、同年、株式会社きじとら出版を設立。2015年、『きょうは、おかみ』『世界のまんなかの島～わたしのオーニー～』『こねこのジェン ダンスだいすき!』『木の葉つかいはどこいった?』を刊行し、新進気鋭の「ひとり出版社」として全国の絵本ファンから熱い注目を浴びている。

加：皆さんとは、どんなきっかけで仲良くなったんですか。

小：中1の時、席が近かったんです。「お」から「く」で名前が並んでいて、出席番号順の席だったので。

加：思い出の写真を一枚お願いします。

小：こんな写真ができました～。左から岡崎(旧姓：金子)真由美さんと藤田(旧姓：木村)香織さん。今も全然変わっていないですよ。



加：中学校の行事は覚えていますか。

小：大山の辛い思い出が……。人生初めてのスキーだったのですが、お天気が悪くて。雨の中のスキーですごく寒くて哀しくなったので、それから行っていないです（笑）。

中：スキーは最初の時の天気で左右されますよね、好きになるかならないか。高校の時はいかがですか。

小：やっぱり体育祭でしょうか。

中：パートは何でしたか。

小：高Ⅰがマスゲームで、高Ⅱと高Ⅲは美術で櫓の色を塗っていました。

加：大学の専攻内容を教えてください。

小：社会科学科で社会学を専攻しました。社会学は、社会を読み取る学問です。テーマも切り口も自由で。私は「血液型占い」を切り口として「予言の自己成就」をテーマに卒論を書きました。

加：とても面白そうですね。大学院では国際社会論を専攻されたんですね。

小：アメリカ児童文学を研究されている吉田純子先生の下でアメリカ社会論を学びました。児童文学を通して社会を読み解く研究です。2年間、とにかくさんの文献を英語で読みました。そのおかげで英語に対するハードルが下がったと思います。

加：広島県庁退職のきっかけは何ですか。

小：当時、心身ともに不調が続いていたので、一度休もうと決断しました。でも家で幼い子どもを育てていると、外で大人と関わりたくなくて英語読書のサークルを立ち上げました。

中：自分で立ち上げるってすごいですね。

小：いえいえ、大変なことはなにもなくて。読書会の講師をしたいと市の女性教育センターに相談し、言われるままに貼紙をしたら人が集まってサークルができたんです。月2回集まって、英語で書かれた子どもの本を原書で読んでいます。中学レベルの構文と辞書があれば読めるテキストの中から、大人も楽しめるものを選んでいきます。生徒さんは比較的年配の女性が多いですね。

加：プロフィールにある「やまねこ翻訳クラブ」とは？

小：海外児童文学を愛するメンバーが集うオンラインサークルです。翻訳学習者も活躍中の先輩方も、フラットな関係で参加できるのが魅力で、私はスタッフとして運営のお手伝いをしています。活動の中に「いたばし国際絵本翻訳大賞」の事後勉強会があって、参

加者は互いの訳文にコメントを出しあい、自分の訳を推敲します。これが、とても勉強になるんです。

中：その「いたばし国際絵本翻訳大賞」を受賞されたんですね。

小：はい。児童書のブックフェアで有名なイタリアのボローニャと縁の深い板橋区が主催する翻訳コンテストです。私は第20回英語部門の大賞でした。定員千人の枠の中で実際に訳文を出したのが765人いて、その中から選ばれました。

加：ひえ?! すごいですね。

小：そうなんです! こんなにすごいことは私の人生で二度とないと思ったので、一念発起して出版社を立ち上げました。課題の絵本“Virginia WOLF”を翻訳出版するためです。

加：そうして『きょうは、おおかみ』という絵本が生まれたんですね。

小：はい。むしゃくしゃしておおかみのようになった妹と、彼女に寄りそう姉の心温まるお話です。絵がとても素敵で、深いメッセージが心に届く、自慢の一作です。ぜひ、大人の読者にも読んでいただきたいです。

加：自分の本を手にしてどうでしたか。

小：ついにかたちになったという安堵感が強かったです。実際に書店に並んでいるのを見た時はとても感動しました。



『きょうは、おおかみ』左：翻訳本 右：原書

加：会社を設立するまでには、どんなことがあったんでしょう。

小：自分は何も知らないの、とにかく人を頼りました。出版コンサルタントや書籍営業のプロの方など、多くの方に助けていただいています。ひろしま

産業振興機構の創業サポートセンターにもお世話になりました。おかげさまでこれまでに「いたばし絵本シリーズ」4点を刊行することができ、この先も近刊『とびっきりの おむかえ』を含め、3点の出版が決まっています。

中：出版業界は大変なご時世なのですが頑張りますね。

小：どこまでやれるか試しているところもあります。どこまで本を出せるか、どこまで資金が回るか。

中：在校生へのメッセージをどうぞ。

小：将来のことを悩んだり見えなかったりするかもしれませんが、深く考え過ぎなくてもいいと思います。やれるやれないだけでなく、やりたいやらないで動いてもいいと思いますよ。

中：アカシアの皆さまにもどうぞ。

小：これからも良い本を1点1点大切に送り出していきたいと思いますので、どうぞ応援よろしくお願いします。世代をつなぐ絵本はプレゼントにも最適だと思いますので、ぜひお好みの一冊を見つけてください。

中：今日はどうもお忙しい中をありがとうございました。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
加：きじとら出版の「きじとら」ってネコの種類だったんですね。

中：えっ、知らなかったん?!

加：ホームページにネコが出ているから、そうかなと思っていたんですが…

中：トラ猫の茶縞が「茶トラ」こげ茶が「キジトラ」灰色が「サバトラ」!

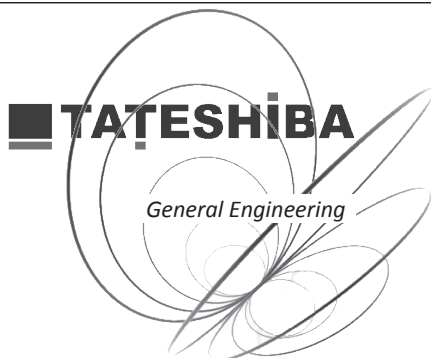
中本 泰弘 (65回)

加用 雅信 (80回)

撮影 瀬尾 淳 (85回)



左より 瀬尾 淳 (85)、中本 泰弘 (65)、小島 明子氏 (83)、加用 雅信 (80)



〒733-0002

広島市西区楠木町2丁目4番3号

株式会社 立 芝

代表取締役会長 向井 恒雄